

教職員や保護者を対象とした実践的 LINE 研修会

鈴木 一貴¹⁾ 池田 大樹¹⁾ 豊田 美咲¹⁾ 西岡 幸紀¹⁾ 池田 勇²⁾ 西野 和典³⁾

九州工業大学 大学院 情報工学府¹⁾ NPO 法人 情報教育支援研究会²⁾ 九州工業大学³⁾

{ o675017k, o675003t, o675024m, o675027y }@mail.kyutech.jp¹⁾

Kamaken9@gmail.com²⁾

nishino@lai.kyutech.ac.jp³⁾

児童や生徒の間で広く普及している LINE の体験を取り入れた研修会を教職員や保護者を対象に行った。児童や生徒が正しい知識や情報モラルを持ち、LINE を安全に使用するためには、指導者の立場である教職員や保護者が理解をする必要があると考えられる。研修会では実際に LINE を使用し、利便性や危険性を体感してもらうことで、情報モラル指導の改善や充実につながることを研修目標とした。

1. はじめに

近年、ソーシャルメディアの進展や携帯端末の普及により、不特定多数の人間と簡単に交流を持つことができるようになった。しかし、交流が容易になったことで、犯罪に利用するといった事例も出てきており、利用者に情報モラルが強く求められている。児童や生徒が正しい知識や情報モラルを持ち、ソーシャルメディアを安全に利用するためには、指導者の立場である教職員や保護者が理解をする必要があると考えられる。

本研究では、近年、急速に普及してきた無料通話・メッセージアプリの「LINE」に焦点をあて、教職員や保護者を対象とした LINE の研修会を実践を交えて行った。

2. LINE について

LINE は、チャットや通話が楽しめる無料のコミュニケーションアプリであり、チャットで利用される「スタンプ機能」をきっかけに人気を獲得した。LINE 株式会社の調べ⁽¹⁾によると、日本人口の約 46%が LINE に登録しており、その中の約 64%が 1 日に 1 回以上 LINE を利用している。また、総務省の調べ⁽²⁾では、10 代で 77.9%、教職員や保護者の多くにあたる 40 代で 63.4%、50 代で 37.3%と、児童生徒に比べ、利用率は低い。特に 50 代は 10 代の利用率の半分以下であり、そのため LINE について詳しくなく、安全な使用法や危険性を指導することは難しい。

3. 実践

3.1 実践方法

LINE 研修会は、小・中学校・高校の教職員や保護者を対象に行った。

使用した端末は、「iPad」と東芝の教員用タブレット PC「CM1」である。それぞれに LINE をインストールし、iPad ではモバイル端末として、CM1 では PC 端末として LINE の使用を行った。

研修会は、始めに LINE の機能について説明し、次に便利な点や危険な点を実例を用いて説明を行った。その後、実際に端末を用いてグループトークの体験を行い、その中で質問を行ってもらった。グループトークでは問題になっている「LINE 外し」などの体験も行った。

3.2 実践結果

研修会での時間配分の多くをグループトークの体験にすることで、受講者から LINE についての質問や意見を数多く得ることができた。グループトークではスタンプ機能の使用も多く見ることができ、受講者からは「生徒が夢中になることがわかる」、「依存する気持ちがわかる」という声もあった。また、LINE 外しの体験を通して怖さを知ってもらうことと共に、この問題を解決することに対する関心を高めることができた。

4. おわりに

本研究では、LINE を取り上げ、情報モラルについて教職員や保護者を対象とした研修会を行った。今後は、研修会の規模を拡大し、多くの教職員や保護者に理解してもらうことで、より一層、情報モラル教育の充実に図っていく必要がある。

参考文献

- (1) 株式会社 LINE : LINE 2015 年 4-9 月媒体資料, 2015 年, < <http://linecorp.com/ads/pdf/0E8613FE-9926-11E3-950E-80FF7B512F31> > (2015/5/21 アクセス)
- (2) IICP 情報通信政策研究所 : 平成 26 年 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査, 2015 年, < http://www.soumu.go.jp/main_content/000357570.pdf > (2015/5/21 アクセス)